

令和7年8月26日

小学校6年生児童の保護者の皆様

苫小牧市立豊川小学校長 丹野 靖彦

令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

晩夏の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月17日（木）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年7月に文部科学省から公表され、苫小牧市でも8月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち児童が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から児童への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行っておりません。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 調査の概要

(1) 実施日

令和7年4月17日（木）

(2) 調査対象

小学校第6学年（市内全小学校で実施）

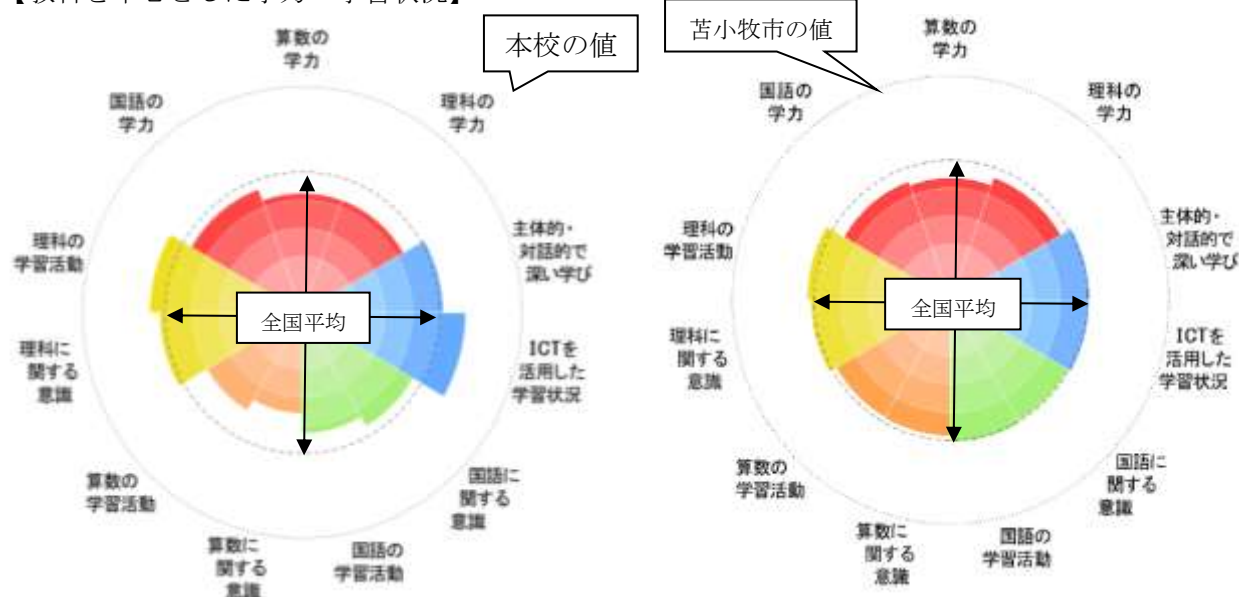
(3) 調査内容等

- ① 教科に関する調査は、国語科、算数科、理科の3教科が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する児童質問調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問調査が実施されました。

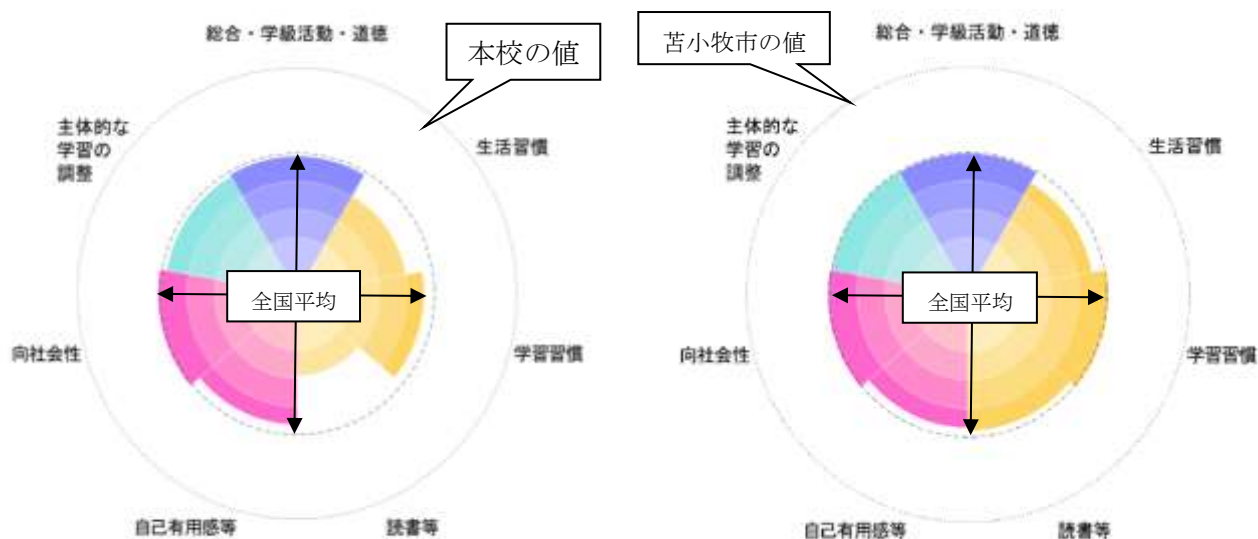
2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較

【教科を中心とした学力・学習状況】



【その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）】



(2) 国語科

- ・国語においては、平均正答率が全国平均と同程度となっている。
- ・国語の正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層・下位層が厚い傾向が見られる。
- ・「A 話すこと・聞くこと」において全国平均を上回っている。「B 書くこと」「C 読むこと」は全国平均を下回った。
- ・「意図に応じて、話の内容を捉える」「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」設問において、全国平均を上回っている。
- ・「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉える」「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」設問において、全国平均を下回っている。

(3) 算数科

- ・算数においては、平均正答率が全国平均を下回っている。
- ・算数の正答数の分布では、全国平均に比べ、下位層が厚い傾向が見られる。
- ・「A 数と計算」「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」の全ての領域で全国平均を下回っている。
- ・全国平均を上回っている問題はなかった。
- ・「平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図する」「台形の意味や性質について理解している」「角の大きさについて理解している」「基本図形に分類することがきける図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する」「異分母の分数の加法の計算をする」等の設問で全国平均を下回っている。

(4) 理科

- ・理科においては、平均正答率が全国平均を下回っている。
- ・理科の正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層・下位層が厚い傾向が見られる。
- ・A 区分「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」、B 区分「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」の全ての区分・領域で全国平均を下回っている。
- ・「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、土と水の量を正しく設定した実験の方法を発送し、表現する」「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している」において全国平均を上回っている。
- ・「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている」「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する」「水の結晶について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している」「水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する」「氷が溶けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解している」等の設問で全国平均を下回っている。

(5) 児童質問調査

学校生活

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか」「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」「あなたは、自分がインターネットを使って情報を収集することができますと思いますか」「あなたは、自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができますと思いますか」「あなたは、自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができますと思いますか」「PC・タブレットなどの ICT 機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「PC・タブレットなどの ICT 機器を活用し、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「PC・タブレットなどの ICT 機器を活用し、友達と協力しながら学習を進めることができる」の質問では、いずれも活用状況が全国平均を上回っている。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の学校生活についての質問では、肯定的回答が全国平均を下回っている。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますと思いますか」の授業に関する質問では、肯定的回答が全国平均を下回っている。

家庭生活

- ・「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問では、肯定的回答が全国平均を下回っている。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、「1時間以上（2時間・3時間以上と回答した人数も全て含む）」と回答した割合が全国平均を下回っている。土日についての質問も同様の結果となっている。
- ・「学校の授業以外に、普段（月曜から金曜）、1日どれくらいの時間、読書をしますか。」では、「全くしない」「10分より少ない」と回答した割合が全国平均を上回っている。

3 学校の今後の取組について

- ◎国語科中心の取組～①根拠を基にした読み取りの指導（理由を明確にさせたり、本文をもとに考えさせたりする）
②書くことの指導の重点化（字数制限を設けたり、ポイントに沿って意見をまとめたりする）
- ◎算数科中心の取組～基礎基本の定着
①四則演算の徹底（整数、小数、分数）
②図形における知識・技能の定着（角の大きさ、面積、体積、作図）
- ◎理科中心の取組～①学習の流れの指導継続（予想→検証→考察→振り返り）
②実験方法や器具の扱いに関する知識・技能の定着
③日常生活との関連を意識した指導
- ◎各教科における取組～①学習方法や内容の自己選択や決定（発達段階に応じた自由進度学習の推進）
②理由や資料など根拠（本文の記述）をもとに考えをまとめる指導
③粘り強く取り組む態度、自己を振り返りながら学習を調整する態度の育成
④適切な家庭学習の在り方の検討
⑤縦割り活動、高学年における教科担任制の継続
- ◎その他の取組～①タブレット端末をはじめとした ICT 機器の効果的な活用
②読書機会の確保や習慣付け
③生活習慣の向上（食事・睡眠）について啓発